

## 情報連絡員からの報告（要旨）

### 《製造業》

#### 食料品製造業

1. <茨城県 納豆 >  
値上げにより収益自体は好転しているが、それでも大きく増益とまでは言えない状況。値上げのタイミングと値上げ幅により収益等は各社バラバラの状況であるが全体的には値上げによる収益好転が見られる。
2. <栃木県 めん類 >  
お盆の時期までは県内各地でのイベントが復活し、人出と共に経済的にも活気が出て、仲間の同業者にも良い影響が出てきている。一方で配送関係のコストアップが続いており、経営の圧迫が続いている。
3. <山梨県 水産食料品 >  
お土産品・ブライダル関連の売上げが堅調に推移している。年始に向けたおせちの前倒し受注も好調であり、前年同月と比べ売上げは124.8%となった。
4. <石川県 調味材料 >  
8月は売上、出荷量ともに昨対2割を超える増加となった。通年では出荷減ではあるものの、パッケージ変更等積極的な対応が利益面で今後功を奏してくるのではないかと考えている。
5. <徳島県 味噌 >  
前年同月比で味噌の生産量は101.9%、出荷量は112.8%であった。前期に比べて生産量が増加し、出荷量も3カ月続けて増加しており需要回復が進んでいる。
6. <佐賀県 漬物 >  
8月に入り天候回復し晴れた日が続いたのと、夏休みやお盆休み等で家族旅行や団体旅行が活発になり、商業施設・スーパー・道の駅に観光地と、多くの人流に伴い、売り上げも若干の伸びが見られた。

#### 繊維・同製品製造業

7. <山形県 織物製成人女子・少女服 >  
原料や設備部品の一部が入手困難になっており、原料の入荷が不安定で納品が予定より遅くなることも多い。原料・設備がなければ織物は作れず、原料の高騰に加え大きな不安材料となっている。
8. <栃木県 縫製 >  
秋物の注文が昨年より減少している。客先のオーダー数量、展開型数も減っており厳しい状況だ。引き続き生産数量の確保に全力を尽くす状況が続いている。
9. <群馬県 外衣・シャツ >  
円安の影響で国内企業への発注が増加するも、資材や光熱費価格の上昇により収益状況は悪化。業界の特性上、転嫁が受け入れられても売上の回収が半年以上先になるため、資金繰りに苦慮する組合員が多い。
10. <静岡県 織物 >  
当組合規模が縮小する中、それに見合った受注が今のところ入っている。他産地の規模も縮小しており、それに伴う受注もあり低位で安定している。
11. <岐阜県 縫製・既製服 >  
秋冬物の量産で引き続き受注環境は好調であったが、原材料や資材の遅れがあり納期に支障があった。春夏物の展示会サンプル等の発注も数多く、職出しも例年より早く10月頃から始まる。
12. <岡山県 アパレル >  
一般カジュアル商品が順調に売り上げを伸ばす中、ジーンズカジュアルは微増または減少の企業が多く低調であった。また、セール抑制の傾向から客単価も上昇傾向にある。

#### 木材・木製品製造業

13. <埼玉県 木材・木製品 >  
夏場の作業環境の悪化等で、お盆休みを例年より長期間取る業者が多く、原木入荷は減少した。製紙用チップは各社とも針葉樹チップの余剰感が強く、納入は抑制気味である。
14. <東京都 建具 >  
大型物件などの受注量は限られており、建築、住宅産業全体を取り巻く状況は相変わらず芳しくない。更に原材料や燃料の価格上昇に伴う建築資材の高止まりが続き、建具業界は苦境に立たされている。
15. <香川県 木材 >  
木材、建築資材などの流通悪化により値上がりした建設物価が未だ安定せず、値下がり期待して新築住宅着工を控えている模様で、需要は伸び悩みが続いている。

16. <愛媛県 木材>  
住宅着工数の減少により製品需要は停滞し、製品輸入は前年に比べて大きく下回ってはいるが、国産材の供給は順調で木材需給の引き締まりが見えない状況になっている。
17. <宮崎県 製材業>  
8月は加工実績は前年並み(101%)であったが、住宅は引き続き低調な状態である。秋以降も回復の見込みはあまりなく、年内は非住宅の加工で数字を確保することになりそうである。
18. <鹿児島県 木材・木製品>  
例年にない猛暑や台風襲来、さらには豪雨の影響ばかりではなく物流や資金の流れ等、社会全体の需給バランスが変容している。市況の動きに活気はなく安物選りの当用買いに終始している。

## 紙・紙加工品製造業

19. <茨城県 段ボール>  
売上高が前年より悪化している組合員が多く、世の中の荷物の移動が低調であることになると思う。人件費の上昇や副資材等の値上がりも現在でも続いており収益が悪くなっている。
20. <愛知県 紙器、段ボール>  
各社の取扱い製品によって、バラツキが大きくなっている。ただ段ボールは、全体として悪化してきている。物価上昇で衝動買い等が少なくなり、物の動きが減っているのが要因の1つである。
21. <岐阜県 紙加工品>  
物価高騰や円安に加え猛暑の影響で業績は低迷し、商品の動きは全体に悪い。組合員の中には、売上が前年対比30%ダウンという回答が数社あり、7月よりも非常に厳しい状況が続いている。
22. <京都府 紙製容器>  
通販需要の伸びにより好調であった段ボールケースの出荷は、販売大手企業の紙袋への転用が影響し減少傾向にある。大手同士の水面下での顧客獲得争いが繰り広げられており、価格低下が懸念されている。
23. <大阪府 古紙収集加工>  
8月は夏枯れの時期であり、古紙の発生は7月に続き非常に悪い。段ボール古紙においては猛暑もあり、飲料需要が牽引し比較的堅調である、しかし食品各社の製品値上げにより消費者の買い控えが目立つ。
24. <高知県 手すき和紙>  
原材料等高騰のあおりを受け、収益状況が思うように伸びない状態。いつまで続くのか不安しかない。原材料等の高騰が止まらず、価格転換はするものの、収益には反映されていない状態が続いている。

## 印刷

25. <秋田県 印刷>  
業界全体として売上が減している企業が多く、先行きに不安を抱えており、受注価格の値上げが重要課題となっている。値上げについて理解を示す取引先も増えつつあるが、収益を改善するには至っていない。
26. <福島県 印刷・同関連業>  
夏イベント等の復活によりコロナ前の経済活動に戻りつつあり、Webサイトのリニューアルや周年の記念誌の案件も増えて受注の回復が認められるものの、原材料単価を吸収できる値上げまでには時間がかかる。
27. <新潟県 印刷>  
コロナ禍が明けイベント等も再開したことで、印刷需要は戻ってきているものの、十分ではない。システム化やDXなどで業務の効率化を図るとともに、利益管理を徹底するなど業務の改革が引き続き必要。
28. <三重県 印刷>  
8月期において、前月期と変わらず低調な動きとなっている。また、夏場の閑散期において、行政機関等にこれまで参加していなかった事業者が参入していたり、極端な低価格で落札している事業者もみられた。
29. <香川県 印刷>  
状況はほぼ変わらないが徐々に売上が戻りつつある。しかしながら原材料、燃料関係の値上がりの影響が大きく利益を圧迫している。広告媒体はwebやSNSに移行しており紙媒体への現象が著しく減っている。
30. <高知県 印刷>  
久しぶりに売上増加、設備操業度上昇となった。8月は県外需要で明るさも見られ、県内需要も一部は好調な企業もある。ただし原材料の高騰が販売価格に十分に反映できてなく厳しい経営状況は継続している。

## 化学・ゴム

31. <神奈川県 石油製品>  
円安に起因する原材料費や荷造運賃等の値上げ分の転嫁が課題。採用活動は売り手市場の進展により、新卒及び中途も困難な状況。収益が厳しい中、賃上げ期待もあり体質改善が必要。
32. <長野県 プラスチック製品>  
8月の売上に関しては、引き続き好調を維持しているが下期以降については不透明。収益面は値上げ交渉の効果が大きく大幅増となっている。

33. <奈良県 プラスチック製品 >  
生産調整、在庫調整及び受注減の影響を受け、前年よりも売上高が減少に転じている。7月以降は受注量が大幅に減少しており、価格転嫁した値上げ分を超える受注額の減により収益状況がさらに悪化している。
34. <島根県 プラスチック製品 >  
受注状況は大幅な落ち込みとなっている（昨年比79%）。自動車関連の落ち込みは継続しているが、それ以外も軒並み受注減となっており、各客先ともに投資に対して慎重な姿勢となっている。
35. <岡山県 ゴム >  
取引先の生産も回復傾向がはっきりしてきた。原材料費、労務費の上昇、高止まりは続いており、製品単価への転嫁は浸透しつつあるものの、未だ十分とは言えない。組合員も収益状況は好転していない。
36. <広島県 工業用ゴム >  
自動車の減産傾向から改善したことで、仕事量が大幅に回復している。現状、生産現場の人員不足は派遣で対応しているが、中長期的な人材の育成・維持にも注力しなければならない。

#### 窯業・土石製品製造業

37. <岩手県 生コンクリート >  
生コンの販売価格については、一部地域で前月より上昇がみられた。8月の出荷量は、官公需、民需それぞれで総じて前年に比べ大きく減少し、県全体では引き続き前年比6割程度の水準にとどまっている。
38. <福島県 砕石 >  
砕石業界全体で景況悪化の状態が続く。今年度に入って、撤退により山砂採取場2カ所が廃止、3カ所が休止状態となり、再開の見通しも立たない。好転への道のりは非常に厳しく、対策を講じる必要がある。
39. <東京都 生コンクリート >  
都心部出荷量が前年並みに回復し、東京都全体で前年比106%となった。物価の高騰に合わせて、今年度は5,000円/㎡分の値上げができた。2年続けての値上げとなっている。
40. <兵庫県 窯業・土石製品 >  
8月は例年お盆休みの関係上稼働日数が少ないことから売上は低調状況にある。一方原材料（鉄筋・セメント等）については、依然として値上げ要請があり対応を検討しているところ。
41. <徳島県 生コンクリート >  
8月の出荷数量は、対前年同月比26%減。収益については4月より生コン価格の改定を行い、原材料及び電力費の値上がり分に対する対応がとられているものの、大幅な出荷数量の減少により更に厳しい。
42. <沖縄県 コンクリート製品 >  
マンション等の民間建設工事が目立ってきており、それに伴う外構工事で当組合製品の需要が増してきている。本島北部でテーマパークの工事案件も出てきており、民間工事の動きが活発になってきている。

#### 鉄鋼・金属製造業

43. <宮城県 機械金属 >  
景況感は停滞もしくは悪化傾向にある。物価高がなお継続しており、ここにきて販売価格への転嫁が見受けられる。今後は物価高の影響とその対策について注視していきたい。
44. <新潟県 ハウスウェア >  
全体としては、依然低調な動きが続く。さらに物価の高騰により消費マインドが低下している。原材料費の高騰は落ち着きつつあるが燃料費や運賃等の上昇は続いており、収益確保が厳しい業況である。
45. <兵庫県 金属製品 >  
前年の8月と比較すると、昨年よりも活動が出来る状況にあるにも関わらず、金物業界の景況は春から悪化傾向にあり、その上建築関係・ホームセンター等の動きも悪く、それらも要因してさらに厳しい状況。
46. <和歌山県 金属製品 >  
業況は改善されてきた企業が多くなってきており、8月以降も発展と回復に期待したい。また、人材不足は続いているが、それに伴い自動化を進めるためのロボットの活用を検討している企業もある。
47. <鳥取県 金属加工 >  
建築関係は大型案件の需要はある為、一部の大手は引き続き忙しくしているが、全国的な建築需要の停滞により、地方の中小企業は厳しくなっている。
48. <熊本県 鉄鋼・金属 >  
売上高減少の組合員が増えつつあり、景況判断は厳しい状況。今後収益悪化傾向にある企業が増えることが懸念される。原材料の高騰や人材確保の面でのマイナス要因が改善されない状況が継続している。

#### 一般機器製造業

49. <秋田県 金属加工機器 >  
受注額は、前年同月比で約20%減少した。前月との比較も下降みで、低調に推移している。原材料価格はやや低下したが、電気料その他の値上げにより、利益面では相変わらず厳しい。

50. <山形県 その他の電気機械器具>  
自動車関連の製造業の業況が改善、売上・在庫共に上昇傾向にある。一方で中国の景気減退の影響で、油圧機器等の海外向け受注が減少し、収益面でも悪化してきている。
51. <長野県 一般機械器具>  
製造業、サービス業ともに人件費・光熱費などの上昇分の転嫁をタイムリーにできず、収益は若干悪化している。半導体関連は中国向けが低迷のため、売上が減少。大手の在庫調整の影響も受けている。
52. <山梨県 業務用機械器具>  
8月に入り半導体関連・設備関連の受注量の減少が深刻化しており、前年同月と比べ売上げ▲35%、収益状況は▲30%となった。この先も厳しい状況が続くと予測している。
53. <三重県 一般機器>  
製造業の関係は、全体的に悪い。自動車関連が先月に続き悪く、工作機械関連も低調に推移している。半導体も不足が解消した後、需要の回復は遅れており、まだこの状態は続くと思われる。
54. <富山県 金属工作機械>  
受注状況について、全体的（工具、軸受、油圧、工作機械、ロボット）に大幅に受注が減少しており、前年同月比82.23%となっているあり、今後も業況及び受注の見通しが見えない状況である。

### 電気機器製造業

55. <長野県 電子機械器具>  
前年同様、操業度は上がっている。お盆等により稼働日数が少なかったため、9月は多忙な企業が増えている。
56. <山梨県 電気機械器具>  
前年同月と比べ売上げ・収益状況ともに▲40%となった。半導体業界はパソコンなどの最終製品の需要低迷に伴う在庫調整が解消されず、売上・仕事量の減少が深刻化している。
57. <愛知県 電気機器>  
得意先の在庫調整のため、売上は下降気味。在庫数は、以前の発注分が入荷して売上が下がったため、増加。資金繰りも悪化している。売上減少に伴い、人員も一部削減している。
58. <三重県 電気機器>  
半導体関連が非常に落ち込み、全体受注が昨年比率より40%ダウンしている。しばらく、この状態が続くそうである。
59. <広島県 電気機械器具>  
売上は前月比▲5%、前年同月比▲20%となった。前月比・前年同月比ともに在庫過多による生産調整や、修理売上の減少の影響を受けている。また、部品の納期改善状況は部門によりばらつきがある。
60. <長崎県 電気機器>  
今年度の受注が少なく売上の上昇が見込めない中でも粘り強く営業活動、生産活動を行い、何とか売上の確保が出来た。来期の受注についても、公共工事の大型案件を含め受注の確保が出来始めている。

### 輸送用機器製造業

61. <茨城県 自動車部品>  
売上高は一部に減少傾向もみられたが、予測の範囲内で影響を及ぼすものではない。しかし、材料費の高止まりが継続しているため、収益を圧迫している。
62. <群馬県 輸送用機械器具>  
下請企業では、生産部品により差が生じているものの、全体で見ると徐々に好転している。自動車メーカーでは部品不足問題が解消されつつある。一方でEV化の影響を懸念。
63. <神奈川県 船舶製造・修理>  
経済活動が復活し、物流が戻り海運市況が上昇。これに伴って新造船価格も上がり、マーケットは‘21年を底に徐々に回復に向かっている。停滞が続いていた、造船業界にやっと明るい兆しが見えている。
64. <愛知県 輸送機器>  
半導体不足の解消から生産が回復傾向にあるが、エネルギーや原材料価格の高騰が企業の収益を圧迫し、倒産企業も出ている状況。併せて人手不足継続中。年末に向け、動向が心配である。
65. <島根県 自動車部分品・付属品>  
8月の売上額は前期比で1%増。前年と比較すると自動車関係が減り、センサーメーカー向けとバス・トラック向けが増え、トントンといった内容。依然として材料費等の高騰により収益は大幅に悪化している。
66. <岡山県 工作機械>  
原材料等の値上がりの影響が徐々に大きくなりはじめている。受注予定は多くあるものの、受注までのスパンが延びつつある状況。業況にすぐに影響を及ぼすほどではないが、早めに対策をとりたいところ。

## その他の製造業

67. <秋田県 漆器 >  
8月は帰省の時期であることに加え、観光客も少しずつ増えてきているので、売上増加につながればと期待したが、物価上昇の影響もあって、前年同月の実績には届かなかった。
68. <東京都 ガス圧接 >  
稼働率は70~120%を維持している。9月1日からアセチレンが値上がりするが、様子見の状況が続いている。値上げ攻勢が始まると一気に経営が逼迫する。稼働率は頭打ちで、これ以上の伸長が期待できない。
69. <神奈川県 工業中心の複合業種 >  
全体では低迷状態。受注量は2~3カ月前より減少傾向が続いている。お盆明けに受注増になっている企業もあるが、経費を考えると収益は以前よりマイナス傾向の所も多い様子。
70. <石川県 プラスチック製品 >  
売上に関して8月は2月~6月に比べ15%から20%程度落ち、収益に関しても赤字となっている。原因は円安で原油・原材料価格の高騰で市況が悪く物が売れない状況になっている。
71. <福井県 眼鏡工業 >  
OEMを中心に受注は堅調。組合員事業所の数に変化はないが、組合に加盟していないような家族経営での加工事業者の廃業がつづいており、受注からフレーム完成までのリードタイム増加が深刻化している。
72. <香川県 綿寝具 >  
8月の業況は前年同月と比べて好調だった。防衛省発注の布団も同業者とともに忙しく売上高も増加した。また、小売業も忙しく売上高は増加している。

## 《非製造業》

### 卸売業

73. <宮城県 鮮魚 >  
コロナ禍のゼロゼロ融資の返済が本格化し、取引先飲食店の倒産や廃業などを耳にする。市場でも売掛金を滞納する事業者が出ており、先月も市場事業者の連鎖倒産があったばかりのため危機感を感じている。
74. <茨城県 米麦 >  
5年産米の集荷が始まり、概算金は前年産より15%ほど値上がりしたが、生産コストの高騰、高温障害等による品質低下や減収のため厳しい状況。
75. <奈良県 青果 >  
8月は台風が多く発生した影響により、野菜類は葉物、果菜類を中心に高騰した。また、品質も悪化した状態が続いた。お盆商戦も、コロナが収束してきている割には前年度より伸びなかった。
76. <愛媛県 卸売 >  
円安に加えガソリン価格も高騰し多くの商品が値上げされている。一方、消費者は節約ムードになってきており必要以外の物はだんだん買わなくなっている。
77. <高知県 青果 >  
猛暑・大雨(台風)の影響で、一部品目に品質・出荷量共に影響があった。特に果実は売上・利益共に苦戦を強いられた様子。
78. <福岡県 古紙 >  
業況としては、国内も海外も非常に悪い。その中でインボイス制度の開始や最低賃金の見直しなど厳しい状況が続く。また毎月のようにガソリンや軽油などの燃料価格が上がり続け、収益を圧迫している。

### 小売業

79. <北海道 各種商品 >  
毎朝5時頃から食堂前には観光客の長蛇の列が出来た。日によっては食材が無くなり、午後の営業を休止することもあった。8月は来場者の8割は観光客で大半は日本人、外国人は3割程度であった。
80. <埼玉県 石油 >  
原油価格の上昇、円安進行、原油高騰対策の補助金が減少などの要因が重なり、前年同月から15%以上の上昇となっている。徐々に需要減少の動きがでている。
81. <千葉県 中古車仕入・販売 >  
前月・前々月より、引続き自動車メーカー各社の生産回復により、新車の納車が順調に推移。新車納車が進む事で、下取車が増え、中古自動車の販売増へと繋がっている。
82. <長野県 織物・衣服・身の回り品 >  
観光客の増加に伴い、店舗売り上げは増加、またイベントも通常開催となり出店したりなど、多忙な1カ月となった。物価の上昇が収まらないため、経営状況としては変わらず難しい状態が継続している。
83. <京都府 食肉 >  
物価高騰により消費者の生活防衛意識が高まり、食肉の販売は低迷している。加えて、食肉外食企業も引き続き人手不足感があり、来店客数を伸ばせないチャンスロスが発生し売上向上を阻んでいる。
84. <大阪府 二輪自動車 >  
販売はそこを打ち始めている模様である。値引き販売が増加しており利益も減少して資金繰りも悪くなっている。ディーラー系販売店(組合員の5%程度)においても在庫過多となってきている。

### 商店街

85. <青森県 商店街 >  
青森ねぶた祭りがコロナ禍以前と同規模で開催。コロナ禍以前と同様、またはそれ以上の人出だった。ねぶたグッズに関しては原材料の高騰により商品の販売価格が上がったが、さほど影響もなく売上も好調。
86. <千葉県 商店街 >  
新規事業の創出に向けて、中央会の組合等支援事業(組合等新分野開拓支援事業)を手掛けている。令和5年度には、AIやDXについての調査研究事業をテーマに研究会を開催する。
87. <石川県 商店街 >  
昨年対比の売上高は98.5%であった。店主の高齢化と後継者不足に加え、売上減少で小さな商店の廃業が増えており、今後自身の店をどうするか悩んでいる事業者が増えている。

88. <福井県 商店街 >  
飲食店は賑わっていて売上が増加しているが、物販店では買上げ点数が減少傾向にあり物価高の影響が出ている。人材確保に苦慮しており販売員不足で営業に支障が生じているといった話を聞いている。
89. <大分県 商店街 >  
今年8月はコロナ前と同程度のイベントが実施された。売上こそ戻ってきてるが原材料や人件費などの高騰で利益が出せてない。猛暑で不要な外出自粛やコロナ感染増などイベント以外の人出に影響があった。
90. <宮崎県 商店街 >  
夏のイベントなどが多数開催され、それなりに街は賑わいを取り戻してきたが、人出不足と原材料の高騰は落ち着くこともなく各店舗の悩みの種になっている。

## サービス業

91. <青森県 警備 >  
8月は、4年ぶりに通常開催された夏祭り等に伴う雑踏、交通誘導警備業務の需要が多かった。業況については、各社とも対応できる能力が限られていることから、これまでと大きな変化はない。
92. <秋田県 旅行 >  
売上高は、前年同月比3.5%増加した。前年はコロナも落ち着き修学旅行の動向が例年どおりだったため、前年同月比の伸び率はわずかだが、コロナ禍前の令和元年度との比較では大幅に増加した。
93. <群馬県 旅館 >  
宿泊者数は前年より増加し、旅館によってはコロナ禍前を上回った一方で、人手不足で対応ができず需要を取りこぼす旅館もみられた。売上は増加するも、燃料や仕入価格高騰が大きな負担となっている。
94. <山梨県 宿泊 >  
コロナ規制のないお盆休みで人流は大きく増加し、各施設の稼働状況は好調であったが、人手不足によりサービスの提供を制限せざるを得ない組合員もあった。
95. <京都府 旅館 >  
京都市内のホテルに関しては、外国人観光客が多いということもあり高い稼働率を示している。旅館に関しては、ホテル程の稼働はなかったものの、ある程度の稼働は確保していたようである。
96. <高知県 旅館・ホテル >  
よさこい祭りや全国中学体育大会等イベントが実施され、業況は良かったが、人材不足により食事付プランの停止、販売客室数を最大化できない等、施設稼働を抑えざるを得ない施設も多い。

## 建設業

97. <福島県 建設 >  
公共土木工事は徐々に増えてきているが、手持ち工事は前年より少ない。資材高騰により発注に慎重さが見られていた民間建築工事も徐々に増加している。公共建築工事は新たな発注が少ない。
98. <富山県 鉄骨・鉄筋工事 >  
中小案件の低迷により鋼材の荷動きが振るわず、鋼材の安売りが一部では見られるが、副資材、輸送費、電気代等の高騰が加工費を圧迫しているため、仕事量確保のための安値受注は避けなければならない。
99. <滋賀県 総合工事 >  
鉄鋼製品をはじめ建設資材価格が引き続き上昇、また賃上げ対応も必要な中で材木やH形鋼等の資材の供給が十分でない状態であり、既契約工事の価格転嫁が難しく収益が悪化している。
100. <福岡県 総合工事 >  
一番大きな問題が資材高騰である。工期が長ければ長いほど、物価の上昇がわからない状態での入札は難しいのか、辞退届が提出される事が多く見受けられる。
101. <佐賀県 管工事 >  
7月期までの公共工事受注額が減少していたが、8月期は前月期の約5倍の受注額となり、前年同月期までの受注額と同等となっている。年度末に工事が集中しないよう、早めの発注を期待している。
102. <大分県 総合建設 >  
管内の公共工事は、前年度に比べ減少(▲49%)となっている。建設業では人手不足が大きな問題であり、「担い手の確保・育成」、「働き方改革」や「生産性向上」の取り組みが課題となっている。

## 運輸業

103. <栃木県 貨物自動車 >  
木材加工品輸送、鉄鋼等の輸送量は減少しているが食料品や日用品については概ね横ばい状態である。多くの荷主企業が運賃の上昇を受け入れているが、燃料の高騰に追いつかず収益を圧迫している。
104. <静岡県 道路旅客 >  
依然として回復の動きは鈍く、コロナ前との比較では輸送人員が75%、運送収入が77%となっている。先行きを見ても運転者不足や燃料価格の高騰など不安材料ばかりが目立つ。

105. <大阪府 貨物運送 >  
問い合わせ件数および見積依頼件数が増加したため受注件数は増加、引越料金は前年と同等で売上高は増加したが、燃料費の高騰が響き前月に引き続き収益状況はやや悪化となった。
106. <山口県 一般貨物自動車 >  
自動車関連の組合輸送取扱高は前年比50%の増加となった。部品調達については大分改善された。燃料価格は原油価格が高水準で推移している。
107. <徳島県 貨物運送 >  
8月はお盆休暇で営業日数が減少するため売上げは減少した。反面、軽油単価は前月比平均で7円強の大幅な値上がりとなり、荷主との値上げ交渉が厳しい中、収益の確保ができない状況にある。
108. <鹿児島県 運輸・倉庫 >  
8月の繁忙期に台風で荷物の出荷が少なく、お盆休み過ぎも関西上陸の台風で下り荷物に影響が出た。燃料高騰と人件費UPが収支に大きな影響を及ぼしているため、荷主へ運賃値上げを要請している。

#### その他の非製造業

109. <岩手県 砂利採取 >  
8月の砂利採取は2件43,585m<sup>3</sup>の取扱いとなった。採取量が減少し、目標・数量が大幅に下回った。
110. <神奈川県 質屋 >  
8月に入ってから猛暑続きで外出を控える人が多かったところもあり、レジャーや外食を控えた人が多かったのか、質屋営業も閑散としていた。
111. <新潟県 砂利採取 >  
令和5年8月度の骨材生産量は、前年同月比で84%、1月から8月までの前年累計比で85%である。今後の骨材需要に不安感あり。価格転嫁の朗報がない。
112. <兵庫県 社会保険・社会福祉・介護 >  
コロナ感染症の影響で収入が伸び悩む中、10月から最低賃金が上がることもあり、各事業所は賃金の見直しが迫られている。ほとんどの事業所が、経営状況は非常に厳しい状況であると考えられる。
113. <岡山県 信用組合 >  
原油高騰が続き、収益状況において悪化傾向が続いている。資金繰り支援を強化した上で、ビジネスマッチング等を含む、本業支援を強化していく方針である。
114. <福岡県 貸金業 >  
本業の質預かり、古物の買取共に取引件数・取引金額の減少傾向が続いている。